



環境経営レポート 2025

(2025年1月～2025年12月)

2026年3月3日発行



株式会社 吉 銘

目次

0 はじめに	03
1 環境経営方針	05
2 事業活動の概要	06
3 環境経営目標・実績・評価	09
1. これまでの実績の推移(全社合計)	09
2. 全社合計	10
3. 本社・新住工場	11
4. 田原本工場	12
5. 五條工場+桜井工場	13
4 SDGs活動	14
5 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	19
6 代表者による全体評価と見直し・指示	20

0

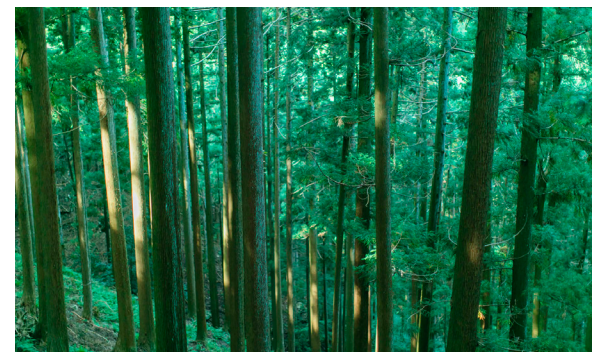
はじめに

吉銘創業の奈良の地は日本でも歴史ある優良な木材産地の一つで、1950年の貝本商店創業以来、時代によって移り変わるニーズに合わせて様々な木材を取り扱いながらその恩恵に感謝し良質な集成材を供給しながら歩んでまいりました。

創業時より『鎧をまとわない商売』という経営哲学を大切にして、信頼をもとにした持続可能な事業を心がけることをあらゆる行動の基礎として活動しています。

また一方で、「木を科学する」をテーマに最新テクノロジーを持つスタートアップに投資して、木材の価値ならびに木材を取り巻く環境向上にも目を向けています。

このような流れの中、私たち吉銘は2006年に「エコアクション21」を取得し、環境経営方針として「大自然に感謝して、少しでも恩返しを」を基本理念に継続して活動を続けており、近年の世界的SDGsへの取組を背景に、SDGsの理念を尊重しエコアクション21の活動とSDGsをリンクさせながら全社で活動に取り組み、サステナブルな社会推進に貢献致します。



0

はじめに

当社は2021年度よりSDGsの理念を尊重し、エコアクション21活動をはじめISO9001などの各種マネジメント活動とSDGs活動をリンクさせながら具体的に取り組んでいます。

環境経営方針 行動指針 事業活動	SDGs目標												
	3 すべての人に 健康と福祉を	4 質の高い 教育を みんなに	5 ジェンダー 平等を 実現しよう	6 安全な 水とトイレを 世界中に	7 エネルギーを みんなに そして クリーンに	8 働きがいも 経済成長も	9 産業と 技術革新の 基盤を つくろう	10 人や国の 不平等を なくそう	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に 具体的な 対策を	14 海の 豊かさを 守ろう	15 陸の豊かさも 守ろう	17 パートナー シップで 目標を 達成しよう
木を活かす 企業													
二酸化炭素 排出量削減													
廃棄物 排出量削減													
水使用量 削減													すべての 事業活動 
環境配慮 原材料の 使用													
環境教育と 全社活動													
安全・ 作業環境													
事業創造・ 社会貢献													

1

環境経営方針

《 環境経営理念 》

『 大自然に感謝して、少しでも恩返しを 』

行動指針

1. 大自然から受けた恩恵である木材を人間の知恵をもって
最大限に余すことなく有効に利用し
〈木を活かす企業〉として循環型の住みよい環境の実現を目指します。
2. 環境汚染を未然に防止すると共に、環境経営システムと環境パフォーマンスを
自主的・継続的に改善できるように推進します。
 - 二酸化炭素排出量の削減
 - 廃棄物排出量の削減
 - 総排水量の削減
 - 化学物質の適正使用について維持管理
 - グリーン購入の推進
 - 環境に配慮した原材料の使用を推進
3. 環境教育・訓練・社内広報活動の実施により、全ての従業員に環境経営方針を
周知徹底すると共に、環境保全に関する知識・認識の向上を図ります。
4. 環境関連法令と当社が参加した協定等を遵守し、
必要に応じて環境管理レベルの向上を図ります。

この環境経営方針は、社外にも公開します。

制定日 2005年5月21日

改定日 2024年2月21日

株式会社 吉銘
代表取締役社長

貝本 隆三

2

事業活動の概要

1. 事業所名および代表者名

株式会社 吉銘 代表取締役社長 貝本 隆三

2. 所在地

本社・新住工場

奈良県吉野郡下市町大字新住1118

田原本工場

奈良県磯城郡田原本町大字味間436

五條工場

奈良県五條市島野町485番地

桜井工場

奈良県桜井市安倍木材団地2丁目4-10

特販部

奈良県橿原市四分町2番地1

札幌支店

北海道札幌市北区新琴似8条2丁目1-11 上島ビル203号

福岡営業所

福岡県福岡市東区多ノ津1-18-15

3. 環境保全関係の責任者 および担当者連絡先

環境経営責任者 代表取締役社長 貝本 隆三

EA管理責任者 神谷 拓信

連絡先 TEL: 0747-52-4066
FAX: 0747-52-4797
E-mail: hinkan@yoshimei.co.jp

4. 事業規模(2025年度)

資本金	7200万円
年商	〈全社〉 218.94億円
主要製品生産量	〈3工場〉 28,494t ■ 本社・新住工場: 5,911t ■ 田原本工場: 8,971t ■ 五條工場・桜井工場: 13,612t
従業員	〈全社〉 158名(2025年12月現在) 〈サイト別〉 ■ 本社・新住工場: 33名 ■ 田原本工場: 37名 ■ 五條工場(桜井工場): 45名 ■ その他部署: 43名
床面積	■ 本社・新住: 13,600m² ■ 田原本工場: 5,811m² ■ 五條工場: 8,132m² ■ 桜井工場: 3,205m² ■ その他部署: 1,220m²

5. 事業内容

集成材の製造販売および住宅関連商品の販売

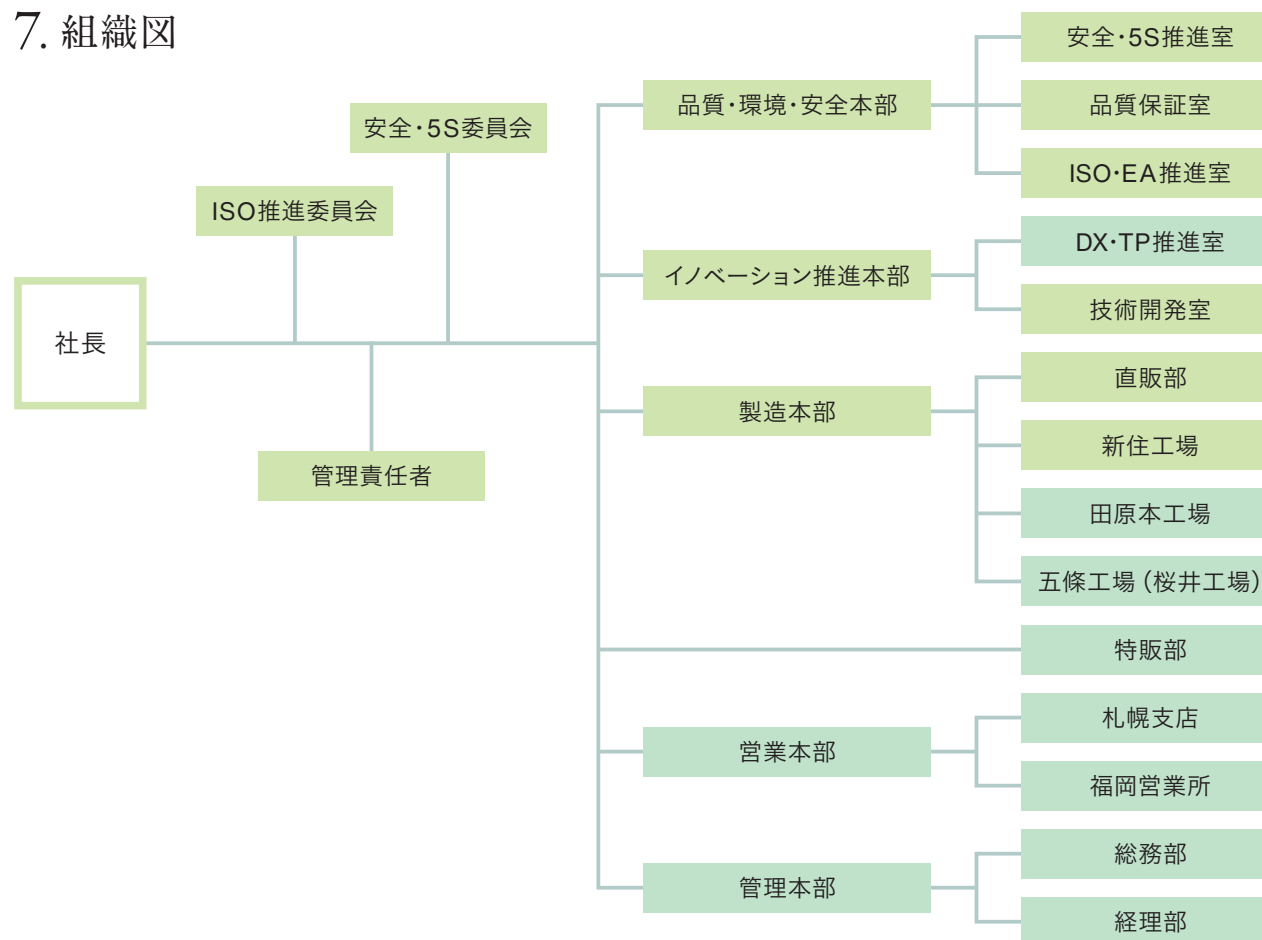
2

事業活動の概要

6. 沿革

昭和25年 4月	貝本商店の創業(創業者 貝本 輝司)	7年 2月	(株)東日本ウッドワークス中部設立
28年 4月	業界に先駆け集成材の製造販売開始(当社 元祖)	9年 1月	桜井工場新設
40年 4月	吉野銘木製造販売(株)に法人組織化	12年 6月	ISO9002認証取得
45年 1月	貝本木材工業(株)を新たに設立(株)吉銘の前身)	14年 4月	田原本工場新設
50年 6月	(株)吉銘に社名変更	15年 3月	貝本木業(上海)有限公司設立
52年 7月	本社を橿原市に新築移転	4月	ISO9001取得
9月	(株)吉銘福山を設立	16年 10月	本社を下市町新住に移転、製造部門と統合
55年 9月	山陰営業所の開設	18年 3月	本社(管理本部・新住工場)で エコアクション21の認証を取得
58年 8月	福岡営業所の開設	20年 3月	一部認証範囲を拡大 (田原本工場および五條工場を追加)
9月	吉野郡大淀町に佐名伝工場を新設	25年 4月	認証範囲を全社に拡大
59年 10月	岡山営業所の開設	26年 9月	児玉工場を開設
61年 4月	吉野銘木製造販売(株)の集成材工場を 製造部門として合併	28年 4月	児玉工場を認証範囲に追加
62年 3月	東京支店の開設	29年 4月	田原本工場にて木質ペレットの製造・販売を開始
平成 2年 3月	資本金7200万円に増資	令和 7年 2月	桜井工場を開設
5年 9月	全自動別注造材プレカットライン完成	8年 6月	桜井工場を認証範囲に追加(予定)
6年 2月	五條工場新設		
9月	札幌営業所開設		

7. 組織図



事業所	所在地
本社	直販部
	新住工場
	品質保証室
	ISO・EA推進室
	安全・5S推進室
	技術開発室
田原本工場	奈良県磯城郡田原本町大字味間436
五條工場	奈良県五條市島野町485番地
	桜井工場
畝傍事務所	特販部
	DX・TP推進室
今井事務所	総務部
	経理部
札幌支店	北海道札幌市北区新琴似8条2丁目1-11 上島ビル 203号
福岡営業所	福岡県福岡市東区多ノ津1-18-15

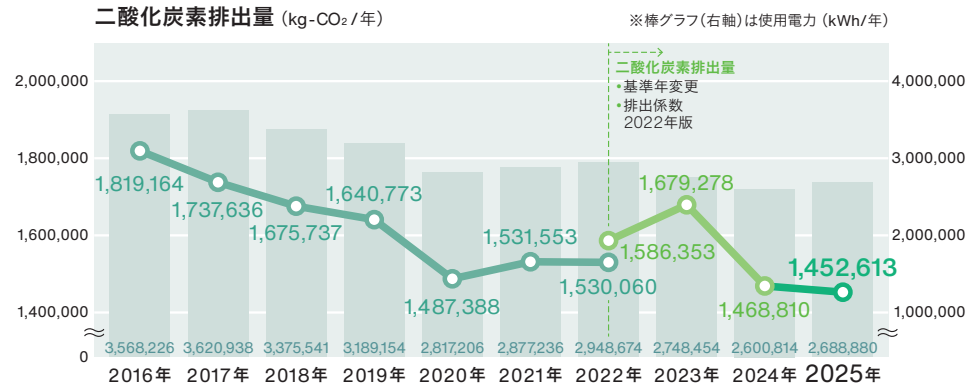
各職位の責任と権限

① 社長	② EA管理責任者 (ISO・EA推進室が補佐)	③ 所属長	④ 所属長代理	⑤ 全従業員
当社の環境経営責任者として、次の責任と権限を有する。 - 環境経営システム管理責任者をはじめ、必要な責任者の任命 - 環境経営システムの構築・運用・維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器設備・技術技能を含む）の準備 - 環境経営に関する基本理念・基本方針の制定 - 環境経営システムの構築・運用に関する情報を収集し、方針・目標をはじめ、システム全体の見直しを行ない、必要であれば改訂を指示する	管理責任者は次の責任と権限を有する。 - 環境経営システムの計画の策定及び確認 - 環境経営システムの実施状況を社長へ報告 - 環境経営システムに関する外部関係者との連絡 - 環境経営システムの確立、実行、維持	環境経営方針に基づき具体的な実施項目を定め、部署の最高責任者として、部署内の環境経営マネジメントシステムに関する全ての業務について、責任及び権限を有し、所属員を管理・監督し、目標の達成を図る。 - 環境経営方針の展開と実施 - 責任と権限の所属長代理への伝達 - 部下の人材育成 - 部署内で営んでいる事業における環境パフォーマンスの維持・改善	所属長不在の際、所属長より権限移譲された範囲で責任と権限を有する。 所属長を補佐し事業所を管理・監督し、目標の達成を図る。	環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する。 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動に参加する。

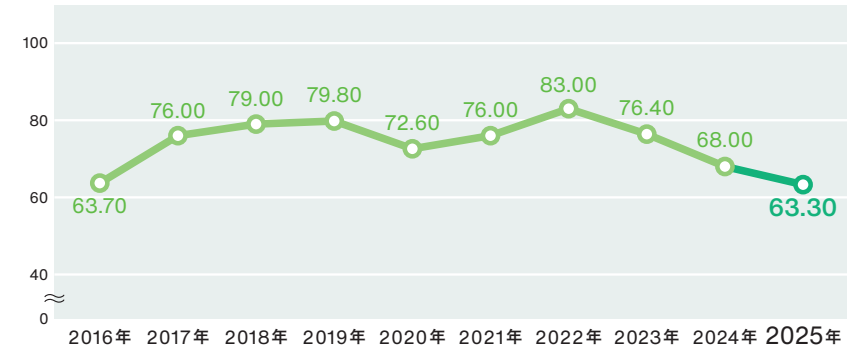
3

環境経営目標・実績・評価

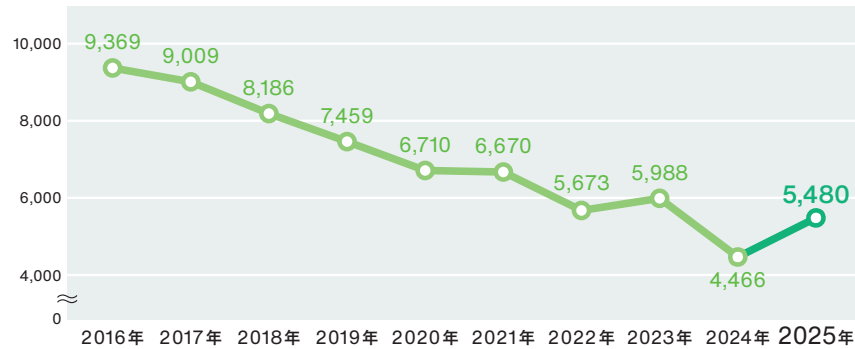
1. これまでの実績の推移（全社合計）



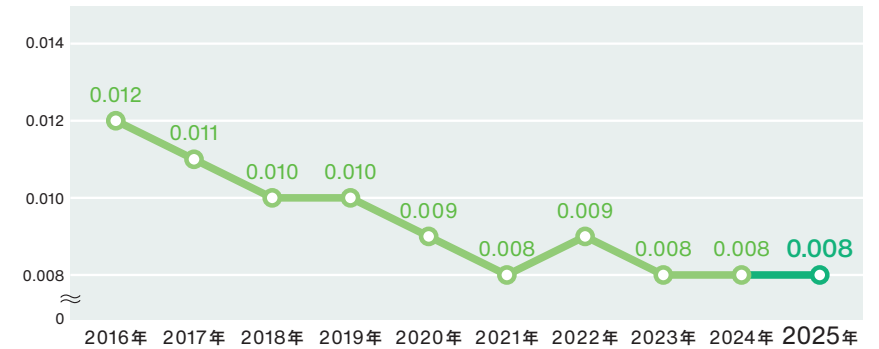
廃棄物排出量 (t/年)



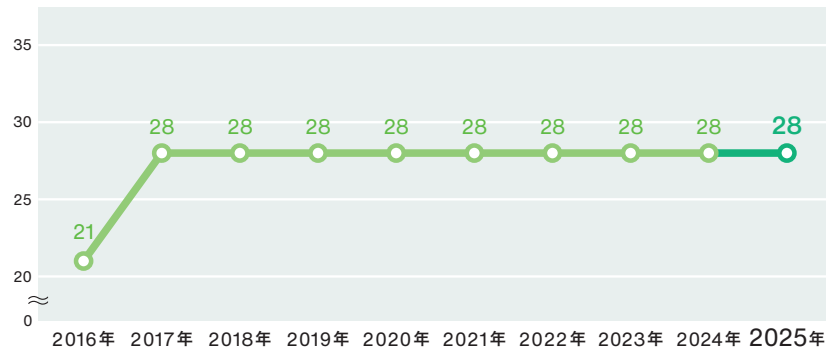
水使用量 (m³/年)



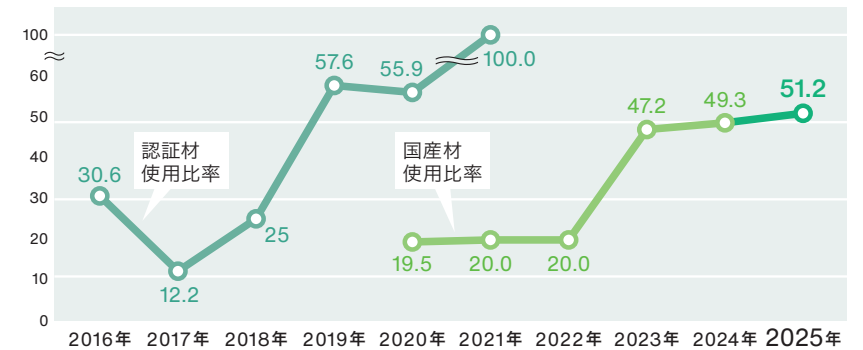
化学物質使用量 (t/t)



グリーン購入 (件/年)



環境配慮製品の割合 (%)



2. 全社合計

活動の評価基準：◎ 総量、生産量あたり共に目標達成 ○ 総量、生産量あたりどちらかで目標達成 × 総量、生産量あたり共に目標未達

項目(単位)			目標				実績	評価				
			基準 2022年 (53期)	2025年 (56期)	2026年 (57期)	2027年 (58期)				2025年 (56期)		
二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂ /年)	内訳		総量 (kg-CO ₂ /年)	1,586,353	1,377,807	1,364,369	1,350,932	1,452,613	目標未達	×		
	購入電力 (kg-CO ₂ /年)	1,301,496	13.1% 削減	14.0% 削減	14.8% 削減	1,168,445						
		化石燃料 (kg-CO ₂ /年)				284,857	284,168					
	基準に対する削減率(%)					－	13.1% 削減	14.0% 削減			14.8% 削減	8.4%
	生産量(販売量) (t)					62,488	61,338					
	生産量あたり (kg-CO ₂ /年)					25	23.7					
	基準に対する削減率(%)					－	6.7%					
廃棄物排出量 (t/年)	総量 (t/年)		83.00	67.85	67.55	67.25	63.3	目標達成	◎			
	基準に対する削減率(%)		－	19.0% 削減	19.4% 削減	19.8% 削減	23.7%					
	生産量(販売量) (t)		62,488				61,338					
	生産量あたり (t/t)		0.0013				0.0010					
	基準に対する削減率(%)		－				22.3%					
水使用量 (m ³ /年)	総量 (m ³ /年)		5,673	4,459	4,414	4,369	5,480	目標未達	×			
	基準に対する削減率(%)		－	21.4% 削減	22.2% 削減	23.0% 削減	3.4%					
	生産量(販売量) (t)		62,488				61,338					
	生産量あたり (m ³ /t)		0.091				0.089					
	基準に対する削減率(%)		－				1.6%					
化学物質使用量 (t/t)	総量 (t/年)		256	生産量あたりの接着剤の使用量を維持			217	目標達成	◎			
	3工場生産量 (t)		29,246				28,497					
	生産量あたり使用量 (t/t)		0.009				0.008					
グリーン購入 (件/年)	件数 (件/年)		28	28 件以上	28 件以上	28 件以上	28 件	目標達成	◎			
環境配慮製品の割合 (%)	木質建材 (国産材) の生産量 (m ³ /年)		5,618	木質建材生産において、国産材の使用割合を 25.9% 以上 27.1% 以上 28.3% 以上			11,943	目標達成	◎			
	木質建材全体の生産量 (m ³ /年)		28,033				23,317					
	国産材使用割合 (%)		20.0				51.2%					

※二酸化炭素排出量算定の排出係数：購入電力 2022年から関西電力0.434 (kg-CO₂/kWh) 中国電力0.552 (kg-CO₂/kWh) 北海道電力0.541 (kg-CO₂/kWh) 九州電力0.475 (kg-CO₂/kWh)を使用

総括

全社取組において二酸化炭素排出量と水使用量が目標未達となりました。

3. 本社・新住工場

活動の評価基準：◎総量、生産量あたり共に目標達成 ○総量、生産量あたりどちらかで目標達成 ×総量、生産量あたり共に目標未達

PLAN		DO	CHECK						ACTION					
項目		計画	実行	目標	内訳(単位)		基準 2022年 (53期)	2025年 (56期)	削減率	理由	活動の 評価	改善		
二酸化炭素排出量削減	購入電力削減	▶生産性向上による 購入電力の削減を図る ※本社・新住工場では二酸化炭素 排出量における購入電力の 割合が高く、購入電力の削減が 最も大きな課題である	▶多品種少量生産に対応すべく 切替時間の短縮を図る	45.5% 削減	購入電力(kWh)		828,654	485,640	41.4%	－	目標 未達 ×	▶現状活動の維持		
					二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)		359,636	210,767	41.4%					
					生産量(t)		10,819	5,911	－					
					二酸化炭素排出量/生産量		26.9	35.7	－32.6%					
	化石燃料 使用量削減	▶「エコドライブ」を推進し、 アイドリングストップに努める	▶省エネ運転の励行	45.5% 削減	二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)		32,066	17,087	46.7%	－	目標 達成 ○	▶省エネ運転の励行		
					生産量(t)		10,819	5,911	－					
二酸化炭素排出量/生産量					2.96	2.89	2.5%							
廃棄物排出量削減	分別による再資源化の推進	▶廃棄物の分別・再資源化 ・ダンボール ・鉄材 ・廃プラ ▶事務所関連廃棄物の削減 ・機密文書の再資源化	▶ダンボールは分別し、 古紙再生業者に引取実施 ▶鉄材は再生業者へ持込 ▶廃プラ圧縮し、リサイクル業者に 持ち込む ▶輸入梱包材の木パレットを 釘のない部分を切断し、再資源化 ▶製造工程で発生する 木材屑(プレナー屑等)は 循環資源として再生利用	63.1% 削減	廃棄物 (t)	事務所(紙)		0	0	－	※事務所の一般廃棄物の排出は 非常に僅かの為算入していません	目標 達成 ○	▶現状活動の維持	
						工場(ダンボール)		0	0	－				
						工場(鉄)		0	0	－				
						廃プラ		18.71	5.49	70.7%				
						工場関連(その他)								
					廃棄物計(t)		18.71	5.49	70.7%					
					生産量(t)		10,819	5,911	－					
					廃棄物量/生産量(t)		0.0017	0.0009	46.3%					
					水 削減 量	▶ボイラーの給水装置の改善 ▶事務所節水の徹底	▶ボイラーの燃料の木屑を 再利用に回し、 余分な蒸気を発生させない ようにする	33.6% 削減	水使用量(m ³)					642
生産量(t)		10,819	5,911	－										
生産量あたり使用量(m ³ /t)		0.059	0.066	－11.8%										
化学物質 使用量削減	▶接着剤の使用量を把握し、 生産量あたりの 接着剤の使用量を維持する	▶毎月の接着剤の購入量と 在庫を管理	生産量あたりの 接着剤の 使用量を 維持する	総量(t/年)		0.3	0.0	－	－	目標 達成 ◎	▶現状活動の維持			
				生産量(t/年)		10,819	5,911	－						
				生産量あたり使用量(t/t)		0.00003	0.00000	100.0%						
グリーン 購入	▶環境配慮製品購入の推進	▶資材および物品購入時に 環境配慮製品の購入を検討する	5件	件数(件/年)		－	5件(以上)	－	－	目標 達成 ◎	▶認証木材購入の 継続に努める ▶現状活動の維持			
環境 製品 配慮	▶木質建材生産量において、 国産材の利用を推進する	▶国産材の使用割合を測定して 達成度合いを監視する	木質建材 生産量に おいて、 国産材の 割合を 21.8%以上	木質建材(国産材)の 生産量(m ³ /年)		－	－	－	－	－	－			
				木質建材全体の 生産量(m ³ /年)		－	－	－						
				国産材使用割合(%)		－	－	－						

4. 田原本工場

活動の評価基準：◎総量、生産量あたり共に目標達成 ○総量、生産量あたりどちらかで目標達成 ×総量、生産量あたり共に目標未達

		PLAN	DO	CHECK						ACTION					
項目		計画	実行	目標	内訳(単位)	基準 2022年 (53期)	2025年 (56期)	削減率	理由	活動の 評価	改善				
二酸化炭素排出量削減	購入電力削減	▶生産性向上による 購入電力の削減を図る ▶電灯の効率利用を図る ※田原本工場では二酸化炭素 排出量における購入電力の 割合が高く、購入電力の削減が 最も大きな課題である	▶機械の生産性を上げ、 生産の効率化を図る ▶電灯の節電を実施	5.7% 削減	購入電力(kWh)	1,195,635	1,180,277	1.3%	▶様々な材料を使用して ラミナの切削回数が増加しました	目標 未達 ×	▶現状活動の維持				
					二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	518,906	512,242	1.3%							
					生産量(t)	11,204	8,971	－							
					二酸化炭素排出量/生産量	37.5	57.1	－52.4%							
	化石燃料 使用量削減	▶「エコドライブ」を推進し、 アイドリングストップに努める ▶省エネ運転を励行する ▶電気式フォークリフトの 採用の検討	▶朝礼等での啓蒙 ▶フォークリフトに啓蒙表示	5.7% 削減	二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	28,178	28,301	－0.4%	▶倉庫や天然乾燥場での フォークリフトの稼働が 増加しました	目標 未達 ×	▶現状活動の維持				
					生産量(t)	11,204	8,971	－							
					二酸化炭素排出量/生産量	2.51	3.15	－25.4%							
廃棄物排出量削減	分別による再資源化の推進	▶廃棄物の分別・再資源化 ・鉄材 ・廃プラ ▶事務所関連廃棄物の削減	▶ダンボールは分別し、 古紙再生業者に引取実施 ▶鉄材は再生業者へ持込 ▶廃プラ圧縮し、リサイクル業者に 持ち込む ▶製造工程で発生する 木材屑(プレナー屑等)は 自社内ボイラー燃料として熱回収 及び循環資源として再生利用	11.3% 削減	廃棄物 (t)	木材(プレナー屑)	0	0	－	▶廃プラスチックが 再利用品として販売できない 状況が継続。 ※事務所の一般廃棄物は 工場関連(その他)に 含まれています	目標 達成 ○	▶現状活動の維持 ▶廃プラスチックの 再利用先を探す			
						工場(鉄)	0	0	－						
						廃プラ	55.9	45.3	19.0%						
						工場関連(その他)									
					廃棄物計(t)	55.9	45.3	19.0%							
					生産量(t)	11,204	8,971	－							
					廃棄物量/生産量(t)	0.0050	0.0505	－1.2%							
水削減	水使用量	▶人工乾燥作業の生産性向上 ▶事務所節水の徹底	▶蒸気配管/バルブの開閉を 夏・冬で見直し実施 ▶ボイラーの運転時間を 夏・冬で見直し実施 ▶人工乾燥に使用していた蒸気を ボイラーの給水タンクにもどす	35.1% 削減	水使用量(m ³)	2,485	1,519	38.9%	－	目標 達成 ○	▶現状活動の維持				
					生産量(t)	11,204	8,971	－							
					生産量あたり使用量(m ³ /t)	0.222	0.169	23.7%							
使用化学物質削減	化学物質 使用量削減	▶接着剤の使用量を把握し、 生産量あたりの 接着剤の使用量を維持する	▶毎月の接着剤の購入量と 在庫を管理	生産量あたりの 接着剤の 使用量を 維持する	総量(t/年)	203	169	－	－	目標 未達 ×	▶現状活動の維持				
					生産量(t/年)	11,204	8,971	－							
					生産量あたり使用量(t/t)	0.018	0.019	－4.5%							
購入グリーン	グリーン 購入	▶環境配慮製品購入の推進	▶資材および物品購入時に 環境配慮製品の購入を検討する	5件	件数(件/年)	－	5件(以上)	－	－	目標 達成 ◎	▶現状活動の維持				
環境配慮	環境 配慮	▶木質建材生産量において、 国産材の利用を推進する	▶国産材の使用割合を測定して 達成度合いを監視する	木質建材 生産量に おいて、 国産材の 割合を 21.8%以上	木質建材(国産材)の 生産量(m ³ /年)	1,668	8,326	－	－	目標 達成 ◎	▶2022年度より 国産材比率が 増加しました。				
					木質建材全体の 生産量(m ³ /年)	24,072	19,700	－							
					国産材使用割合(%)	6.9	42.3%	－							

5. 五條工場+桜井工場

活動の評価基準：◎総量、生産量あたり共に目標達成 ○総量、生産量あたりどちらかで目標達成 ×総量、生産量あたり共に目標未達

PLAN		DO	CHECK							ACTION
項目	計画	実行	目標	内訳(単位)	基準 2022年 (53期)	2025年 (56期)	削減率	理由	活動の 評価	改善
二酸化炭素排出量削減	購入電力削減	▶生産性向上による 購入電力の削減を図る	-21.1% 削減	購入電力(kWh)	900,987	1,001,394	-11.1%	▶桜井工場の排出量を 加算したため増加しました	目標 達成 ◎	▶各生産設備の 生産性を上げることで 生産量あたりの 二酸化炭素排出量を 削減する施策を継続する
				二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	391,028	434,605	-11.1%			
				生産量(t)	8,701	13,615	-			
				二酸化炭素排出量/生産量	47.3	31.9	19.6%			
	化石燃料 使用量削減	▶「エコドライブ」を推進し、 アイドリングストップに努める ▶省エネ運転を励行する ▶人工乾燥の効率化を図る	-21.1% 削減	二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	192,310	211,864	-10.2%	▶受注増により、人工乾燥に 使用する灯油の量が増加した	目標 達成 ◎	▶天然乾燥の期間を確保する ことで木材の水分量を 少なくして人工乾燥時間を 短くし灯油の使用量を 削減する施策を継続する
				生産量(t)	8,701	13,615	-			
				二酸化炭素排出量/生産量	22.10	15.56	29.6%			
廃棄物排出量削減	分別による再資源化の推進	▶廃棄物の分別・再資源化 ・鉄材 ・廃プラ ▶事務所関連廃棄物の削減	-37.7% 削減	工場(鉄) 廃プラ 工場関連(その他)	0	0	-	▶透明な廃プラの資源化は 継続中 ※事務所の一般廃棄物の排出は 非常に僅かの為算入していません	目標 達成 ○	▶現状の活動を継続する
					8.5	11.78	-38.6%			
					8.5	11.78	-38.6%			
				廃棄物計(t)	8.5	11.78	-38.6%			
				生産量(t)	8,701	13,615	-			
				廃棄物量/生産量(t)	0.0010	0.0009	11.4%			
水 削減 使用量	▶人工乾燥作業の生産性向上 ▶事務所節水の徹底 ※五條工場ではラミナ(製品を 構成する板材)を乾燥するための ボイラーに水を使用している。	▶水道水使用量を毎月確認する ▶人工乾燥の前に天然乾燥を 十分することで ボイラー使用水を削減する ▶人工乾燥時の木屑焚きボイラーの 蒸気を効率運用する	-7.3% 削減	水使用量(m ³)	3,376	3,429	-1.6%	▶生産量が増えた分の材料を 乾燥するため 水の使用量が増加しました ▶新規乾燥設備 (灯油ボイラー使用)を 設置・稼働を開始しました	目標 達成 ◎	▶人工乾燥の前に 天然乾燥を十分することで ボイラーの稼働時間を 削減する ▶人工乾燥時の 木屑焚きボイラーの蒸気を 効率運用する
				生産量(t)	8,701	13,615	-			
				生産量あたり使用量(m ³ /t)	0.388	0.252	35.1%			
使用量削減 化学物質	▶接着剤の使用量を把握し、 生産量あたりの 接着剤の使用量を維持する	▶毎月の接着剤の購入量と 在庫を管理	生産量あたり の接着剤の 使用量を 維持する	総量(t/年)	52.764	47	-	-	目標 達成 ◎	▶現状の運用を維持する
				生産量(t/年)	8,701	13,615	-			
				生産量あたり使用量(t/t)	0.006	0.003	43.0%			
グリーン 購入	▶環境配慮製品購入の推進	▶資材および物品購入時に 環境配慮製品の購入を検討する	5件	件数(件/年)	-	5件(以上)	-	-	目標 達成 ◎	▶現状活動の維持
環境 製品 配慮	▶木質建材生産量において、 国産材の利用を推進する	▶国産材の使用割合を測定して 達成度合いを監視する	木質建材 生産量に おいて、 国産材の 割合を 21.8%以上	木質建材(国産材)の 生産量(m ³ /年)	3910.6	3617.4	-	-	目標 達成 ◎	▶目標達成
				木質建材全体の 生産量(m ³ /年)	3910.6	3617.4	-			
				国産材使用割合(%)	100.0	100.0%	-			

4

SDGs活動

SDGsの活動内容 当社は下記の活動を通してSDGsに取り組んでいます。

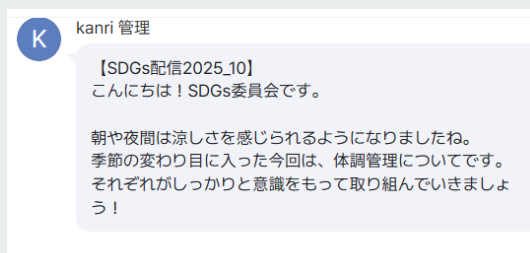
環境経営方針 事業活動	SDGs 目標	活動内容
木を活かす企業	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	ペレットを製造販売して、 化石燃料の使用量削減に貢献します。
	12 つくる責任 つかう責任	木材の効率的な利用とスマートモデュールで 木材の特性を活かし自然と調和した生活を提案します。
	15 陸の豊かさも 守ろう	集成材の製造の際に、短材などの手間のかかる材を 積極的に利用して、森林資源減少に努めています。
二酸化炭素 排出量削減	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	生産性を向上させて、単位当たりの電力使用量を 削減することでエネルギー効率の改善に寄与します。
	8 働きがいも 経済成長も	従業員参加のTP活動により、生産技術を磨き 生産性向上に寄与します。
	13 気候変動に 具体的な対策を	二酸化炭素排出量を削減することで、 気候変動の緩和に努めます。
廃棄物削減	12 つくる責任 つかう責任	生産に係る化学物質や廃棄物の管理を実現し、 排出量を削減しています。
	14 海の豊かさも 守ろう	ペット、プラ類の分類・リサイクルすることで 海洋汚染防止を防ぎます。
	15 陸の豊かさも 守ろう	ペーパーレス化と製品の歩留り向上により 森林資源の減少に寄与します。
水使用量削減	6 安全な水とトイレ を世界中に	発生させた蒸気を回収して、 水の使用量削減に貢献します。

環境経営方針 事業活動	SDGs 目標	活動内容
環境に配慮した 原材料の使用	12 つくる責任 つかう責任	国産材の利用を推進することで 国の政策を支援しています。
	15 陸の豊かさも 守ろう	合法木材を利用することで、 持続可能な森林経営ならびに木材の循環に 貢献しています。
環境教育	4 質の高い教育を みんなに	環境教育はもとより、ISO活動、TP活動においても 個々のスキル向上、多能工化や部署成長の取組を通じて 社員教育を実践しています。
安全・作業環境	3 すべての人に 健康と福祉を	従業員の安全、健康を実現するために、 作業環境の改善に努めています。
	5 ジェンダー平等を 実現しよう	女性の働きやすい作業環境を作っています。
	10 人や国の不平等 をなくそう	誰でも作業できるよう現場設備の改善を進めています。
事業創造・ 社会貢献	8 働きがいも 経済成長も	部活動などの福利厚生充実により企業価値を高め、 雇用を確保して事業創造・継続をします。
	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	国内外のスタートアップ企業に投資し 最先端テクノロジーを自社の経営に活かしたり、 技術革新の基盤構築に向け積極的に対応しています。
すべての 事業活動	17 パートナシップで 目標を達成しよう	国内外のサプライヤーと協調しながら 事業を行っています。

社内啓蒙活動

SDGs委員会の活動

当社ではSDGs委員会による社内向けに情報発信を行っています。
委員会で作成した内容をLINEWORKSを用いて社内へ発信しています。



去年は、体調管理促進や、社内で行っているSDGsへの取り組みについての紹介などを発信しました。

社内全体でSDGsへの関心を高め、社会貢献へとつながるよう引き続き情報発信を行っていきます。

4 質の高い教育を
みんなに

社会貢献

奈良県SDGs企業認証

17 パートナシップで
目標を達成しよう

「奈良県SDGs企業認証制度」においてアドバンス認証を取得しました。

「奈良県SDGs企業認証制度」は奈良県が中小企業の持続可能な開発目標（SDGs）への取組を「見える化」し、企業価値の向上と地域社会の持続可能性を推進するため、令和7年度に創設されました。

当社は今後もSDGs活動を通じ社会的責任と企業の成長を両立させる事業活動をして参ります。



イノベーションの推進

TP発表会



当社では、半期に一度TP活動発表会を行い、生産性の向上に努めています。



各部署が改善事例を発表し共有することで、全社員が生産性向上についての意識を高め、業務改善・効率化など積極的に活動し、生産量当たりの二酸化炭素排出量削減に取り組んでいます。

2025年度はグループ会社も参加し、会社の枠組みを超えて行いました。

環境への取り組み

ボイラー導入



当社では、2025年に五條工場にボイラーを導入しました。工場から排出された木くずを燃料として再生利用し、木材の乾燥の熱源に役立てています。



社会貢献

スポーツを頑張る子供たちへ



当社では、「吉銘カップ」として小学生ドッジボール大会へ協賛し、地域社会への貢献活動をしています。



県内各地から20チーム、総勢約200名が参加し、各チーム全国大会への出場を目指して白熱した試合が繰り広げられました。



吉銘は、立ち上げ当初からM-BASEに協賛しています。



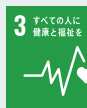
M-BASEは、奈良県内で選抜された小学3年生～6年生を対象に、次世代のバドミントン選手を育成するために毎月1回指導をしていくバドミントンアカデミーです。

オリンピックメダリスト高橋礼華さんと藤井瑞希さんが2023年に高橋さんの地元である奈良県橿原市で立ち上げました。



社内コミュニケーション

地域イベントに参加・健康増進



当社では、数年前から社内コミュニケーション向上と、健康増進のため飛鳥RUN×2リレーマラソンに参加しています。



今年は1チーム10人の3チームで参加し、応援を含め40人以上が参加しました。

皆全力で走り切り、3チームとも無事完走することができました。

社内コミュニケーション

e-sports部



当社のe-sports部は、2021年に発足し、2025年には4年目を迎えます。



2025年度、FFL企業対抗戦では、富士通やSONYなどの強豪企業と対戦し、予選通過・本戦進出という結果を残しています。



吉銘では真剣に取り組んだからこそ感じる“悔しさ”と“成長”は、まさに仕事でのチャレンジにも通じると考えています。

また、e-sportsによるグループ企業間での交流も生まれています。

5

環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社に関連する環境関連法規と遵守状況は次の通りです

環境関連法	主要な設備等	遵守状況			
		本社・新住工場	田原本工場	五條工場	桜井工場
大気汚染防止法	ボイラー	-	○	○	-
騒音規制法	木材加工機 コンプレッサー	○	○	○	○
振動規制法	コンプレッサー	○	○	○	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物	○	○	○	○
消防法	木材加工品 木屑	○	○	○	○
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	第1種指定化学物質	-	○	○	-
フロン排出抑制法	業務用エアコン エアドライヤー	○	○	○	○
自動車NOx・PM法	トラック	○	-	-	-
合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律(クリーンウッド法)	木材 集成材 ベレット	○(全社で対応、遵守しています)			

○: 遵守
△: 申請中
-: 非該当
×: 未遵守



総括

全事業所において過去3年間、関係当局より違反の指摘はありません。

6

代表者による全体評価と見直し・指示

項目	見直しの有無	変更・理由
環境経営方針	変更なし	-
環境目標・計画	変更なし	-
実施体制	変更なし	-

当社は緑豊かな地で創業して以来木材に携わり、
大自然の恩恵を受けて成長してまいりました。
行動指針の通り、大自然から受けた恩恵である木材を
人間の知恵をもって最大限に余すことなく有効に利用することを
常に心掛けて活動しています。

今期の取組につきましては、二酸化炭素排出量と水使用量が目標未達となりました。
桜井工場が稼働したことと、人工乾燥のためのバイオマスボイラーに
使用する水が増えたことの影響が大きくなっています。
来期は環境目標を達成するよう、引き続き現体制にて活動致します。

これからも従業員一人一人の環境への意識向上はもとより、
生産性向上による資源の省力化・エネルギーの効率利用を目指しながら、
持続可能な社会実現に貢献できるよう
引き続き企業活動に邁進して参ります。

2026年3月3日
代表取締役社長

財 隆 三



🌿 次回の環境レポートは2027年3月の予定です。